

事務事業名	いじめ・不登校対策事業			担当部	教育委員会事務局	担当課	学校教育課
実施計画	2	年目					
新基本計画	市政戦略編	分野別計画編	3 教育・子育て 12 学校教育	3	教育力を向上し、調和のとれた人格形成を支援します		
予算区分	一般会計	款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育指導費 大 4 中 1
根拠法令・個別計画	① いじめ防止対策推進法 ② 小牧市いじめ防止基本方針 ③ 義務教育の段階における普通教育に相当する教育機会の確保等に関する法律						
目的	何(誰)を対象に	ア)いじめ・不登校に係る児童生徒 イ) 貧困やネグレクトといった家庭環境が要因となる児童生徒の問題行動事案					
	どのような状態にするか	学校復帰への支援、学校生活への適応をはかるとともに、新たなひとりを生まないように、全ての児童生徒が充実した学校生活を送ることができるようにする。					
手段	どのような事業を実施するか	ア) 適応指導教室の運営、学校カウンセラー、不登校児童生徒訪問指導員の派遣、心の教室相談員の配置など。 イ) 社会福祉士または精神保健福祉士の資格をもつスクールソーシャルワーカーを配置し、学校からの要請を受け、派遣する。					
	事業内容						
事業の概要	28年度	<p>ア) 適応指導教室の運営(7名)、学校カウンセラー(3名)、不登校児童生徒訪問指導員(1名)の派遣、心の教室相談員(25名)を継続して配置した。</p> <p>イ) 社会福祉士の資格をもつスクールソーシャルワーカー(1名)を配置し、学校からの要請を受け、教育委員会の判断により派遣した。</p> <p>○問題を抱える児童生徒等の状況の把握及び問題の整理を行う。</p> <p>○保護者、教職員等に対する相談及び情報提供等を行う。</p> <p>○関係機関等とのネットワークの構築および連絡・調整をし、問題を抱える児童生徒が置かれた環境への支援を行う。</p> <p>○学校で生じる諸問題についてのケース会議等、関係会議への出席及び助言をする。</p>					
	29年度	<p>ア) 適応指導教室の運営(7名)、学校カウンセラー(3名)、不登校児童生徒訪問指導員(1名)の派遣、心の教室相談員(25名)の配置を行う。</p> <p>イ) 社会福祉士の資格をもつスクールソーシャルワーカー1名を配置し、学校からの要請を受け、教育委員会の判断により派遣する。</p>					

事業費	財源内訳 (千円)	H28		H29	
		当初予算額	決算額	当初予算額	
		合計	52,699	50,440	52,573
	国支出金				
	県支出金		620		
	地方債				
	その他				
	一般財源	52,699	49,820	52,573	
	特定財源の説明	スクールソーシャルワーカー活用事業補助金			
事業費	事業費内訳 (千円)	H28		H29	
		当初予算額	決算額	当初予算額	
		細々節			
		4 社会保険料	4,022	3,486	4,085
		7 臨時嘱託職員賃金	29,742	28,601	29,713
		8 講師謝礼	60	60	60
		フレッシュレント謝礼	30	30	30
		ボランティア謝礼	450	149	400
		心の教室相談員謝礼	17,500	17,305	17,500
		9 費用弁償	3	1	3
		普通旅費	4	4	6
		特別旅費	49	2	48
		11 消耗品費	201	194	180
		燃料費	33	25	30
		食料費	1	1	1
		修繕料	94	87	30
		医薬材料費	3	3	3
		12 通信運搬費	78	71	78
		保険料	11	8	10
		13 いじめ・不登校対策事業委託料	260	260	240
14 事務機器借上料	85	84	85		
テレビ放送受信料	28	28	28		
美術館入場料	5	3	5		
18 適応指導教室用備品購入費	30	28	28		
19 適応指導教室連絡協議会負担金	10	10	10		
従事者数	正職員(人数)	0.01	0.05	0.01	
	その他職員(人数)	11.00	11.00	11.00	

業績及び自己評価	ステップ I	影響を与える展開方向の指標		単位	目指す方向性	基準値	H26	H27	H28	H29
		①	市内小中学校における不登校者のうち、登校ができるようになった者および、良い変化があった者の割合	%	→	46.2	27.9	41.9	37.3	
	②	基本施策の展開方向の指標に対する影響(貢献等)								
	H28 実施結果	毎年、状況が変化するため、指標の数値は増減するが、トレンドとして目指す方向へ向っていると考える。								
業績及び自己評価	ステップ II	事業の成果指標		単位	目標	H26	H27	H28	H29	
		①	不登校児童生徒数	人	目標	-	-	-	-	-
					実績	251	258	283		
		②			目標					
					実績					
業績及び自己評価	ステップ III	事業の活動指標		単位	目標	H26	H27	H28	H29	
		①	適応指導教室(カルミア)入級児童生徒数(年度末)	人	目標	-	-	-	-	-
					実績	16	23	28		
		②	スクールソーシャルワーカーが学校、家庭、関係機関等への訪問回数	回	目標	-	-	-	-	
					実績	-	-	86		
		事業の目標達成状況とその要因、実績増減の要因、今後の見通し								
	H28 実施結果	毎年、状況が変化するため、指標の数値は増減するが、トレンドとして目指す方向へ向っていると考える。								
	ステップ III	要因を踏まえた事業の見直し								
	H28 実施結果	引き続き、現在の事業内容に沿った取り組みを行う。								

一次評価	判定		判定理由
	事業の方向性	維持	事業のボリュームを現状規模で維持するもの

二次評価	判定		判定理由
	事業の方向性	維持	一次評価のとおり。
	実計ヒアリング実施要否	不要	
事業の位置づけ	実施計画事業として継続		